

2021
受難週間

「まだ眠って 休んでいるのか」

マルコ福音書14章 ゲツセマネの主イエスの祈り

【今日のアウトライン】

0. 受難のメシアの足取り

I. 史上最大の霊的戦い

II. 弟子たちの敗退

III. まとめと適用

敗北を認め、勝利者になろう



ゲツセマネの園



0. 受難のメシアの足取り

イエス時代のエルサレム

神の民イスラエルは、主の律法を破り、
度重なる背きの結果、自ら滅びを招いた。

主の憐れみの内に、捕囚から解放。
悔い改めて歩み出したが、
常に大国の脅威にさらされた。

ローマの圧政で、苦しみは頂点に。
約束されたメシアへの待望が極まる中で、
ついに、その誕生の日を迎えたのだが...



【メシアの生涯につまよって来た 死の影】



【メシアの生涯につきまとしてきた 死の影】



メシアは、死者を巻く布でくるまれ、石の飼い葉桶に寝かされた。

東方の賢者の贈り物の一つは、死者の葬りに用いる没薬。

ヘロデ大王に命を狙われ
ベツレヘムの虐殺を免れた。

【メシアの生涯につままとってきた 死の影】



罪なき主イエスのバプテスマは、
人々の罪の贖いの子羊として
死んで復活される使命のしるし。

【メシアの生涯につままとってきた 死の影】



イエスが人々の前で行った
メシアのしるしとしての数々の奇跡。

それにも関わらずイスラエルは、
メシアなるイエスを拒んだ。

メシアの先駆者ヨハネの死は、
メシアの死をも予兆させるもの。

ナザレのイエスはメシアなのか？

驚くべき数々の奇跡を目にしながら、
イスラエルは終に、公の結論を下す。

「イエスの奇跡は、悪霊の業だ」と。

メシアは約束の民に拒絶され、
命を狙われるようになる。

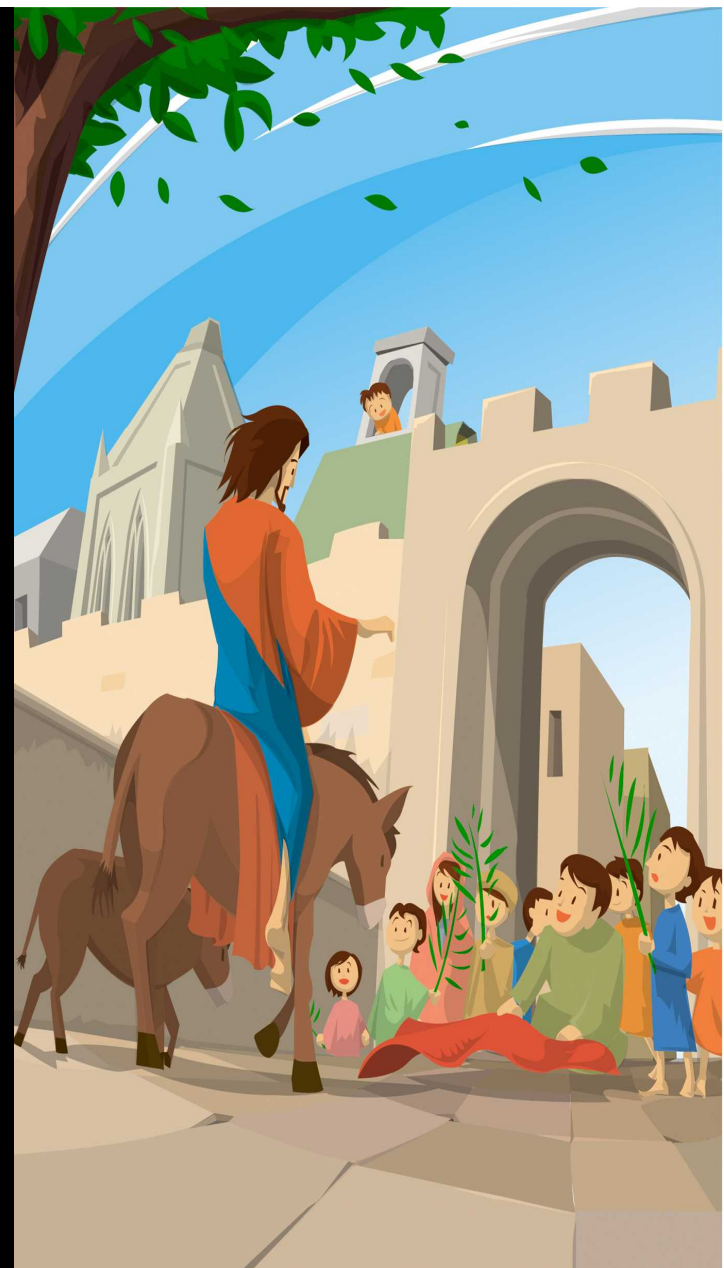
メシアによる自身の死と復活の予告を
弟子たちは受け入れられないままだった。



イスラエル最大の過越祭が近づいていた。

平和の王として、人々の熱狂の内にエルサレムに入城したメシアは、

敵の最後の論戦を退け、ご自身に罪なきことを明らかにされる。



そして迎えた過越祭の晩。

メシアは、血による新しい契約を
弟子たちと結ばれた。

神の生きた法が、聖霊によって
信じる者の心に刻まれる。

過越祭が示す真実の犠牲の子羊、
メシアの十字架の死によって。

裏切り者のユダは去り、時迫る中、
メシアは、オリーブ山に向かわれた。



エルサレム神殿

オリーブ山

鶏鳴教会(カヤパ官邸)

ベン・ヒノム(ゲヘナ)





I. 史上最大の霊的戦い マルコ福音書14章32～42節

オリーブ山から臨むエルサレム

【ゲツセマネにて】 マルコ14:32

さて、彼らはゲツセマネ*という場所に来た。
イエスは弟子たちに言われた。「わたしが
祈っている間、ここに座っていなさい。」

■ 過越の晩10時頃？ いつもの祈りの場。

* ゲツセマネ = “オリーブの搾り場”

オリーブの実は、収穫直後、巨大な
石臼で砕かれ、袋に入れ、重しを
して、オリーブ油を絞り出した。

■ イエスは、自らの命を砕いて、
最後の祈りをささげようとしている。



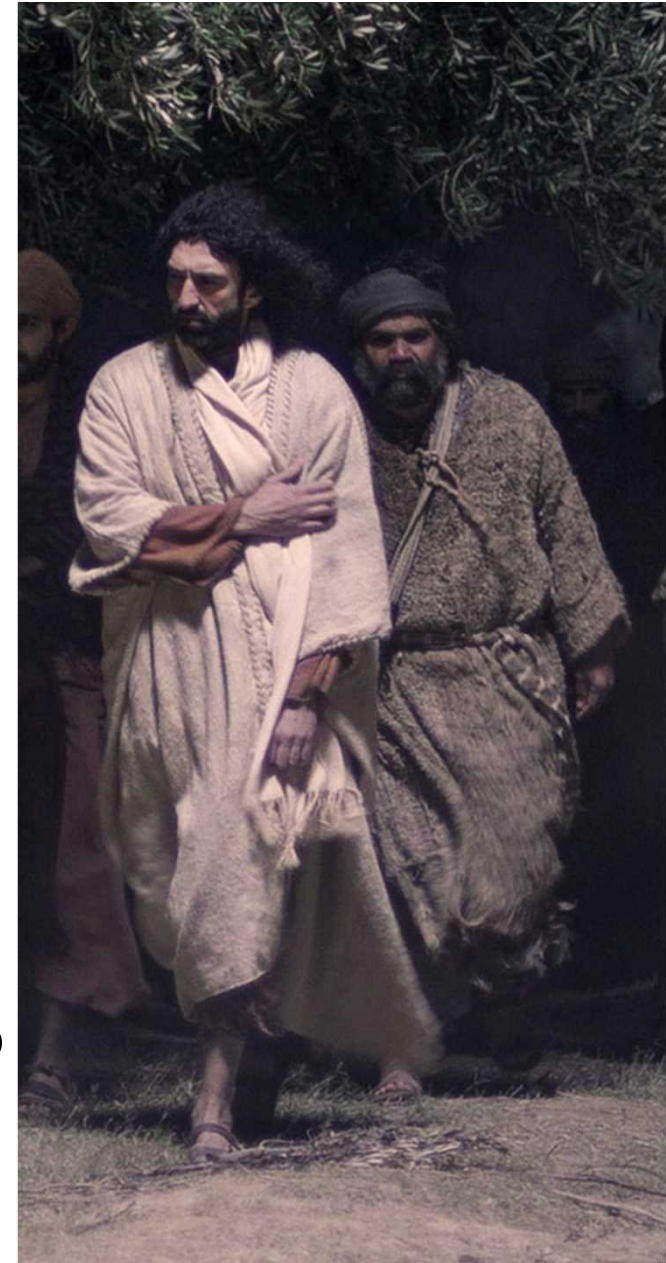
【3人の弟子を連れて】 マルコ14:33

そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ*と一緒に連れて行かれた。

* 12弟子のリーダー。...ヘルモン山で主イエスの栄光の顕現を目撃した3人。

「そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。ルカ 22:41」

* 石投げの有効射程距離？ ➡祈る声は聞こえる
(参考)中学生のソフトボール投げ...平均25m



【驚愕するイエス】 マルコ14:334

イエスは深く悩み、もだえ始め、*彼らに言われた。

***驚愕し、(戦い)始め、苦しみもだえた。**

“始める” ➡ 公生涯の開始の宣言(マタ4:17)

■ 父なる神からの**完全な断絶**の受容という戦い。

■ 聖書で知るとは、**全身全霊で知る**こと。

➡ 本当の意味で、主イエスが知らされた時。



【イエスの嘆願】 マルコ14:34

彼らに言われた。「わたしは**悲しみのあまり死ぬ**ほどです。ここにいて、目を覚ましていなさい。」

- 人間としての弱さの現れ？
 - ➡ 神の子が、悲しみに死ぬほどの**人間の想像を絶する苦しみ**の中にいる!!
- 完全に一体である、父なる神と断絶される苦しみ。**断絶=死**。イエスの死は、父との完全な断絶。
- 不完全でバラバラな私たち人間でさえ、愛する者との死別にどれほ悲しむか...
- **史上かつてない苦しみ**がイエスを襲っていた。
- 戦いの見届け人となった弟子たちだったが....



【史上最大の激戦】 マルコ14:35

それからイエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、できることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈られた。

- 身を投げ出し、全身全霊で祈るイエス
- 一体誰が、愛する人との断絶を願うだろうか？
- 父との断絶をイエスが望まないのは、真実の愛の方として当然のこと。



イエスの弱さではない！
はかりしれない愛の深さ

【歴史を揺るがす決意】 マルコ14:36

そしてこう言われた。「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。どうか、**この杯**をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。」

- **神の怒りの杯**を飲み干すと決意された。
- 主イエスが、愛する父との完全な断絶を受け入れられたこの時、史上最大の戦いの勝利が決した。
- 主イエスは、まっすぐに十字架へ向かう!!



メシアによる贖いの預言

あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、
【主】はこう言われる。

「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を
取り上げた。

あなたはわたしの憤りの大杯を もう二度と飲む
ことはない。 イザヤ書51:22」

【弟子たちの戦い】 マルコ14:37～39

イエスは戻り、彼らが眠っているのを見て、ペテロに言われた。「シモン、眠っているのですか。一時間でも、目を覚ましていられなかったのですか。誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」
イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈られた。

- 主イエスの史上最大の霊的戦いは終わった。
➡これから試練に直面するのは、弟子たち。
- 私たちに必要なことは、自分自身の弱さを覚え、主に助けを求め、主にすがりつき、祈ること。



【弟子たちの敗北】 マルコ14:40~42

そして再び戻って来てご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたがとても重くなっていたのである。彼らは、イエスに何と云ってよいか、分からなかった。

イエスは三度目に戻って来ると、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。もう十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡されます。立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」

- 弟子達の眠りは、戦いの拒絶。逃避。霊的敗北。
- イエスの激戦いの傍らで眠る弟子は、私たち。
➡あなたは、あなたの戦いを戦っているのか？



主イエスは自ら
十字架に向かわれる



Ⅱ. 弟子たちの敗退

マルコ福音書14章43～52節

オリーブ山から臨むエルサレム

【ユダと群衆】 マルコ14:43

そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二人の一人のユダが現れた。祭司長たち、律法学者たち、長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした群衆も一緒であった。

- 過越の食事の場を一人離れたユダ。
密告し、弟子たちだけが知る、いつもの祈りの場へ 兵士たちを先導してきた。



【裏切りの口づけ】 マルコ14:44～46

イエスを裏切ろうとしていた者は、彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえて、しっかりと引いて行くのだ」と言っておいた。

ユダはやって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と言って口づけした。

人々は、イエスに手をかけて捕らえた。

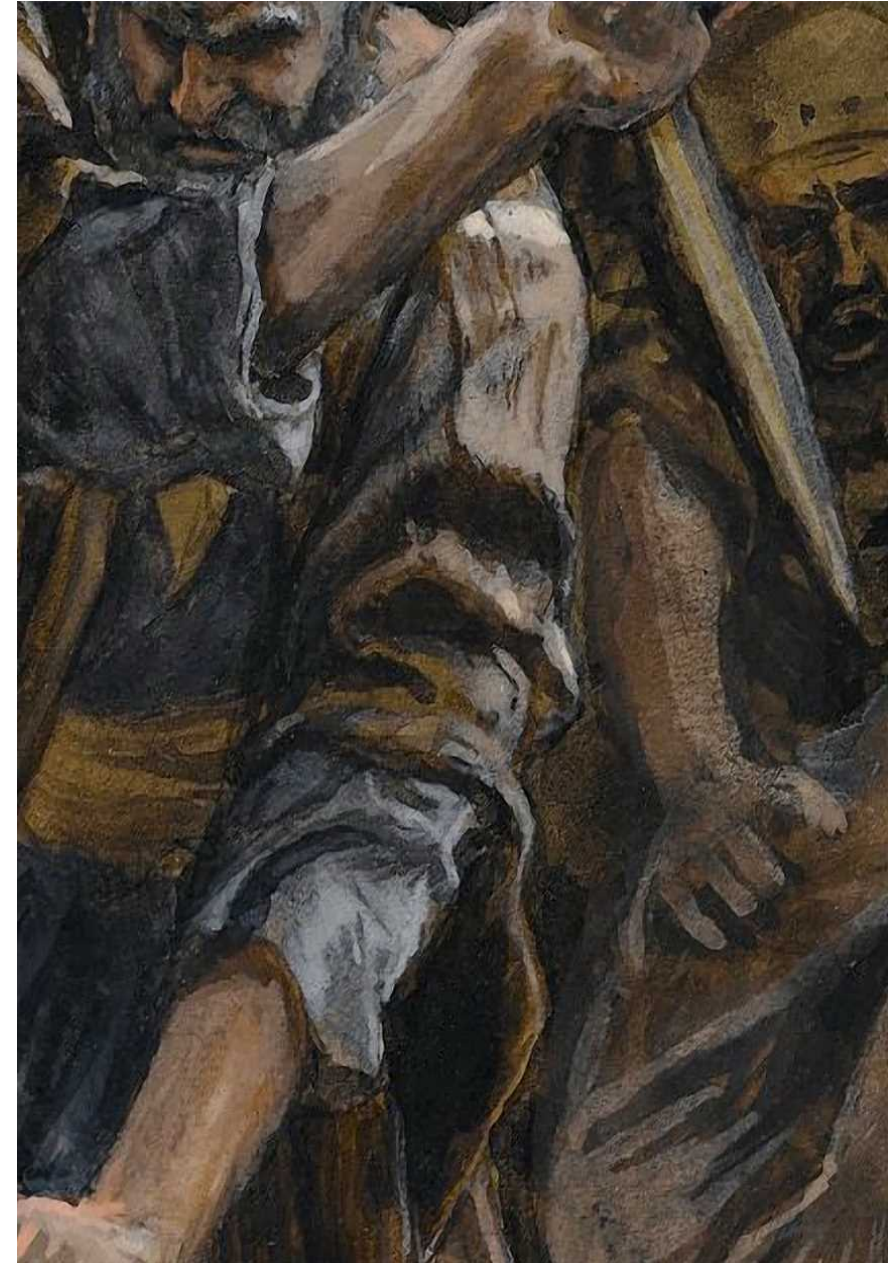
- 師への深い尊敬を表すはずの口づけが、裏切りの合図となった。



【ずれた覚悟】 マルコ14:47

そのとき、そばに立っていた一人が、
剣を抜いて大祭司のしもべに切りかかり、
その耳を切り落とした。

- ペテロの仕業。イエスはすぐに、
切られた耳を癒やされた。(ルカ22:31)
- 霊的戦いに、完敗したペテロ。
あとの祭り。失地回復には遅すぎた。
- 霊的な戦いにおいて、剣など何の役にも立たないという事実を、
弟子達は思い知らされることになる。



【すべては御手に】 マルコ14:48~49

イエスは彼らに向かって言われた

「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。

わたしは毎日、宮であなたがたと一緒にいて教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえませんでした。しかし、こうなったのは聖書が成就するためです。」

- 時を支配しておられるのは主ご自身。
主イエスが、この場を支配し、導いている。
➡ 自ら捕らえられ、十字架向かうイエス。



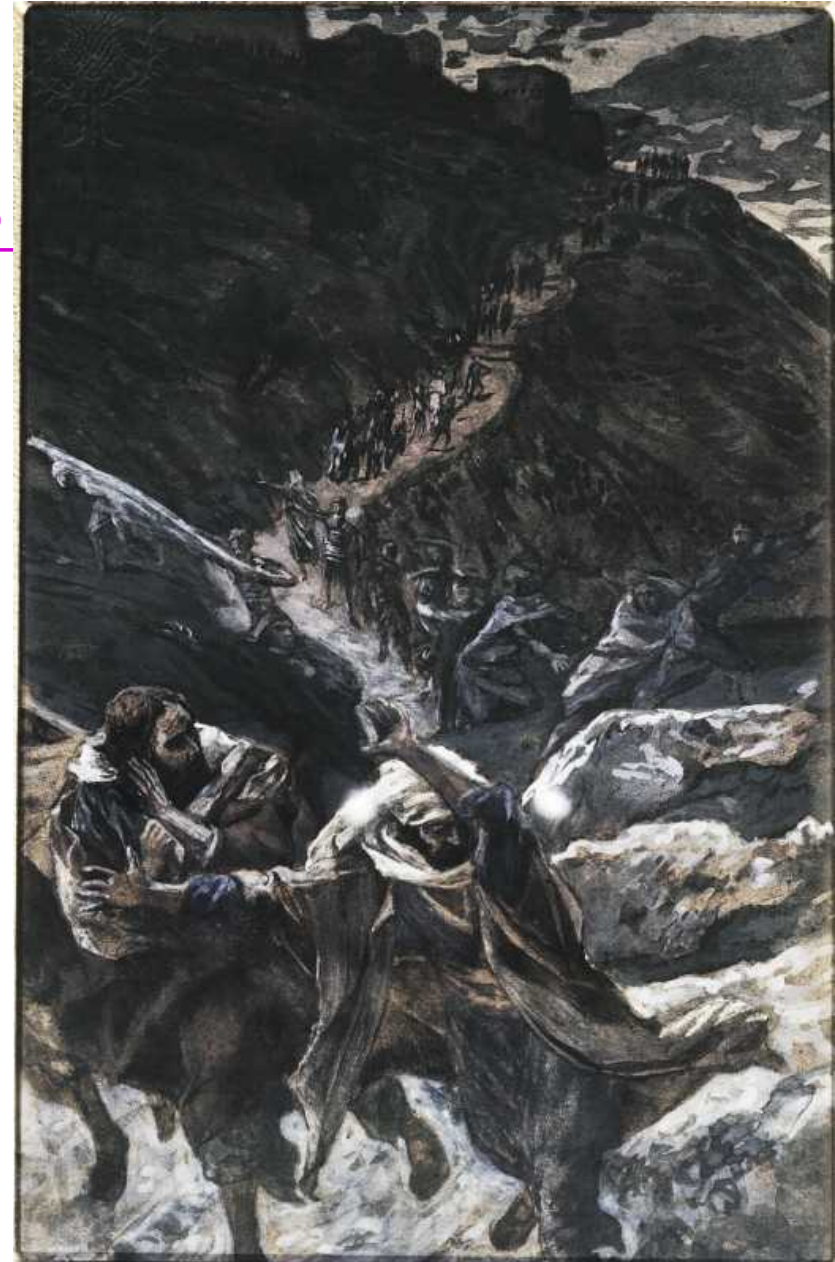
【逃げ出した弟子たち】 マルコ14:50～52
皆は、イエスを見捨てて逃げてしまった。
ある青年*が、からだに亜麻布を一枚まとっ
ただけで*イエスについて行ったところ、
人々が彼を捕らえようとした。すると、
彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。

* **ある青年** ... 著者のマルコ自身か?!
過越の食事は彼の父の家?

* **おしゃれ着?** 当時の流行最先端?

■ 裸の恥を露わに逃げ出した情けない姿は、
人の弱さと愚かさを突きつける。

➡ 私たちの人間的決意は、この程度!!





Ⅲ. まとめと適用

敗北を認め、勝利者になろう

オリーブ山から臨むエルサレム

【主イエスが教える霊的戦いの本質とは？】

- ゲツセマネで、主イエスは**史上最大の霊的戦い**を戦われた。父との断絶を受け入れられ、**怒りの杯**を飲み干す決意をされた。霊的戦いの勝利は、ただ主に委ねることだと教えられる。
- 霊的戦いとは、「悪霊よ出て行け」と外に向かって叫ぶことではない。むしろ、戦いの本質は、常に**私たちの内**にある。
- 目を背けたい過去、情けない現実。己の弱さと罪に向き合うなら、私たちは容赦なく**敗北**するだろう。
- 完膚なきまでに叩きのめされたなら、確かに**勝利**に導かれる。己に頼らず、ただ主により頼むしかないと、思い知らされるから。

【イエスの勝利・信者の勝利】

- 神の怒りの杯を飲み干し、父からの断絶を受け入れた主イエス。この瞬間、史上最大の霊的戦いの勝敗は決した。あとはただ、粛々と十字架に向けて歩いていかれる。
- 自らの罪を認め、十字架の贖いと復活の**福音**を信じ、告白した時、私たちの人生最大の霊的戦いの勝敗は決した。
- **永遠の命は確定**されている。喜びをもって宣言しよう。“私は、主のものです。主イエスは勝利されました。”と。
- 後はただ、自分の十字架を担ぎ、粛々と歩いていくだけ。

【弟子たちの敗北・私たちの敗北】

- 自らの罪を認めるとは、**自分の敗北を受け入れる**こと。
- 自らの心を閉ざし、事実から目を背け、拒絶してきた自分の情けない現実を受け入れよう。
- 信じた者は、さらに情けない自分の罪を突きつけられるだろう。いつでも立ち返るべきは、**敗北者に過ぎない自分の原点**だ。
- 世にあっては、誇るものなど何もない、**敗北者のままでいい**。なぜなら、このわたしを、主が永遠の勝者となされたから。
- この心に刻まれた、十字架の勝利をがっちりと握りしめよう。

【この真実の勝利を味わい知っていくために】

- 主イエスの前に、眠りこけ、裸で逃げ出した。
それが、**私自身の姿**なのだと認めよう。
- 十字架を負うとは、**世にあって恥を受けること**。
主イエスがあざ笑われ、唾を吐きかけられたように。
世の人は、あなたをあざ笑い、見下すだろう。
- しかし、主の前でかいた以上の恥はない。**世の失敗を恐れるな**。
十字架の主イエスの完全な勝利を高らかに宣言していこう。

【主が戦ってくださる戦いに、言い訳の余地はない】

- わたしは弱いから、戦えない？ 福音を伝えられない？
むしろ、**弱さのゆえに**、主はあなたを用いられる。
- どんなできごととも、あなたの信仰の停滞とは無関係。
- 信仰生活の停滞の本当の原因は、主への敗北宣言を拒んでいる、あなたの**つまらないプライド**だ。
弱さを言い訳にするあなたは、弱さの自覚を拒絶している。
- 口先だけで弱さを語り、踏み出さない言い訳にするだけなら、裏切り者のあのユダと、どう違うだろうか？

【主が戦ってくださる戦いに、言い訳の余地はない】

- ユダはイエスの十字架を、弟子達の誰よりも正確に理解していた。しかし彼は、主の前にひれ伏し、悔い改めることができなかった。
- 逃げ出したペテロ、マルコ、弟子たち。しかし、彼らはとことん、自分の罪と敗北を噛みしめさせられて、主の前に自らの敗北を認め、罪を告白し、**悔い改め、立ち返った**。
- 信じてなお、罪を犯し、主から離れる私たち。しかし、罪を告白し、悔い改めて立ち返るなら、主が何度でもこの身を引き上げて下さる。
- 私たちの弱さも罪も知り尽くされ、ひとり戦われた主が、**今、行きなさい**、と告げられている。信頼して歩み出して行こう。

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしは主のものです。主イエスは、勝利(しょうり)されました。

弱(よわ)い わたしのために、主イエスがひとり、たたかっ

てくださいました。くだかれ、しぼりとらえた主イエスの

いのちが、わたしの永遠(えいえん)の いのちとなりました。

ただ主に信頼(しんらい)します。

今、わたしを、ここから、つかわしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」